

目次

はじめに

序章 教育協力とは何か

本書の構成

1

第1章 国際協力における教育…第二次世界大戦後の変遷

はじめに／大きな開発理論の流れ／教育開発・教育協力のアプローチと実践の変遷（1）1945年～60年代（2）1970年代（3）1980年代（4）1990年代から「万人のための教育」「ミレニアム開発目標」（5）2000年代半ば以降／日本の援助（1）1950～60年代（2）1970～80年代（3）1990年代～現在／むすび

23

第2章 教育、学校と学び

はじめに／西欧の教育思想と途上国教育開発への含意（1）子どもの発見と近代教育思想のめばえ（2）発達心理学（3）児童中心主義、新教育運動（4）

85

国家主義的な教育思想)／学校の歴史(1) ヨーロッパにおける公教育の発展(2) 日本における近代学校教育の発展(3) アフリカにおける教育の歴史と近代学校制度)／社会における教育(1) 教育の再生産機能(2) 「隠れたカリキュラム」(3) 学歴と振り分け装置としての学校(4) ナショナルリズムと教育の政治化(5) グローバリゼーションと教育(6) 職業教育か教養教育か)／むすび

第3章

「学校」は目的を果たしているか

はじめに／学校、公教育制度の効果・効率の評価(1) 行政、制度の効果・効率(2) カリキュラムの内容と実施の評価(3) 教育機会と結果の公平性)／測定しにくい教育の目的(1) 就学と家族、社会の変化(2) 学校間格差、費用と公平性(3) 学校で学ぶ知識と生活の関わり)／学校の意味、知識の意味)／おわりに

終章

日本と途上国のつながり(1) 三位一体の改革(2) 塾、補習(3) マイノリティ教育(4) コミュニティ・スクール)／おわりに